

シラバス

教 科	科 目	単 位 数	学 年	コ ー ス	組
数 学	数 学 C	4	3	文系NP	9組

教科書	数学C（数研出版）	副教材	クリアー数学C（数研出版）
			NEW GLOBAL MARCH数学 I + A + II + B + C（東京書籍）

科目の目標	2次曲線および媒介変数表示と極座標について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を
	数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
	共通テストや大学入試に対応する基礎学力の養成と進学後の学問研究のための数学的な資質の育成。

科目の概要	授業では、第2章「空間のベクトル」の途中から、第3章「複素数平面」、第4章「式と曲線」を扱う。
	教科書終了後は、大学入試に向けて数学全般の演習を行う。

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①知力・学力 ②課題対応力	③論理的思考力 ④原因分析力 ⑥受信・発信力	②課題対応力 ⑧行動力 ⑨自己管理能力
観 点 の 評 価	2次曲線の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 の 方 法	定期試験の設問で評価することを基本とし、状況に応じて小テスト等でも評価する。	定期試験の設問で評価することを基本とし、状況に応じて小テスト等でも評価する。	提出物（課題）や授業態度等で評価する。

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	第2章 空間のベクトル 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. 座標空間における図形 第3章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式と乗法, 除法 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形 【1学期 中間試験】 5月19日～22日	空間におけるベクトルの内積, 位置ベクトルについて理解できる。位置ベクトルによって, 空間図形の性質を調べることができる。 複素数が「複素数平面」(座標平面)上の点と1対1に対応していることを理解する。 複素数を「極形式」で表すことができ, 複素数の乗法・除法の意味を図形的に理解できる。 ド・モアブルの定理を利用して1のn乗根を計算できる。
	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質 第2節 媒介変数表示と極座標 7. 曲線の媒介変数表示 8. 極座標と極方程式 9. コンピュータといろいろな曲線 【1学期 期末試験】 7月1日～7日	定点や定直線からの距離について, ある条件を満たす点の軌跡として「放物線」「楕円」「双曲線」を理解できる。またそれら2次曲線と直線の共有点の個数や座標が調べられる。 いろいろな曲線を「媒介変数」を用いて表すことができる。 「極座標」の表し方を理解し, 極座標と直角座標の変換ができる。
2 学 期	入試問題演習 【2学期 中間試験】 10月14日～17日	入試問題に直結する問題パターン, 出題傾向を理解する。 自ら考える力を身に付け, 解答を確実に記述する力と身に付ける。 共通テストおよび大学入試問題に対応できる力を身に付ける。
	入試問題演習 【2学期 期末試験】 12月1日～5日	入試問題に直結する問題パターン, 出題傾向を理解する。 自ら考える力を身に付け, 解答を確実に記述する力と身に付ける。 共通テストおよび大学入試問題に対応できる力を身に付ける。
3 学 期	特別編成授業 生徒の進路および希望に合わせて受験講座と教養講座を設置する。	受験講座: 大学入試問題に対応できる力を身に付ける。 教養講座・各自の興味・関心に合わせて, さまざまな分野の学習体験を通じて教養を深める。